

透湿防水シート利用によるモモの果実品質向上効果

福島県果樹試験場栽培部・平成7年～10年度試験研究成績書

1 部門名 果樹－モモ－水管理・水分制御 分類コード 04－02－14000000

2 要 旨

モモ栽培では、収穫前の降雨が、糖度など果実品質に与える影響が著しいことが知られている。そこで、平成7年から10年にかけて、透湿防水シートの敷設がモモの果実品質に及ぼす影響について検討した。

(1) 透湿防水シートの樹冠下全面被覆により、糖度の上昇効果が4年間の試験期間を通じて安定的に認められた。平成10年の非破壊果実品質測定機による収穫果実全体の調査では、糖度12度以上の果実の割合が85.7%と対照(反射マルチ)区の45.4%に比べ多くなった。しかし、敷設期間の気象条件(降水量等)により、糖度上昇効果は左右され、平成8年、9年(品種: 'あかつき')のような少雨で土壤乾燥が進んだ条件下では、対照区との差がみられず、また平成10年8月(品種 'ゆうぞら')の異常な多雨条件下では防水効果が劣った。

(2) 着色については、対照(反射マルチ)区と同等かやや優る効果が認められた。これは、被覆時期が収穫1ヶ月前であり、対照(反射マルチ)区に比べ早いこと、また、反射効率も高いためと考えられる。

(3) 果実肥大については、対照区と差が認められない状態が多かったが、樹勢が低下するような過乾燥条件下では、果実肥大が抑制される場合があるので、注意が必要である。

(4) 透湿防水シートの敷設時期については収穫1ヶ月前が適当であり、敷設方法は列状敷設より樹冠下全面敷設のほうが果実品質の向上効果が高く有効であった。

(5) 透湿防水シート区は対照(反射マルチ)区に比較して、収穫期が1～3日前進する効果が認められた。

(6) 以上のことから、透湿防水シートを収穫1ヶ月前から樹冠下全面に敷設することにより、果実の糖度及び着色が向上し、収穫期も前進すると判断される。